

学習指導要領との対照表

「家庭総合（4単位）」「家庭基礎（2単位）」両方のカリキュラムを設定している場合でも、活用しやすくなっています。

家庭総合（4単位）学習指導要領の内容	Creative Living「家庭総合」で生活をつくろう構成・内容
A 人の一生と家族・家庭及び福祉	
(1) 生涯の生活設計 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解するとともに、自立した生活を営むために、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めること。 (イ) 生活の営みに必要な金銭、生活時間などの生活資源について理解し、情報の収集・整理が適切にできること。 イ 生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考察するとともに、生活資源を活用して生活設計を工夫すること。	第1章 生活のマネジメント 1. 生涯、発達し続ける 2. 意思決定を重ねてつくる人生 3. どんな生き方をする？ Skill up：月の予算を立ててみよう 演習に Try：人生を見通してみよう 最終章 生活をデザインする 演習に Try：なりたい私になろう
(2) 青年期の自立と家族・家庭及び社会 ア 次のような知識を身に付けること。 (ア) 生涯発達の視点から各ライフステージの特徴と課題について理解するとともに、青年期の課題である自立や男女の平等と協力、意思決定の重要性について理解を深めること。 (イ) 家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭と法律、家庭生活と福祉などについて理解するとともに、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わり、家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深めること。 イ 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考察すること。	第2章 青年期の課題と自立 1. 子どもからおとなへ 2. 自立の達成をめざそう Skill up：いろいろな価値観にふれてみよう 第3章 家族・家庭生活のマネジメント 1. 家族って何だろう 2. わかってくれて当然？ 3. 生活マネジメントの視点 4. 法律から見る家族・家庭 5. ダイバーシティの実現をめざす Skill up：身近な相談窓口を知っておこう
(3) 子供との関わりと保育・福祉 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 乳幼児期の心身の発達と生活、子供の遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援について理解を深め、子供の発達に応じて適切に関わるための技能を身に付けること。 (イ) 子供を取り巻く社会環境の変化や課題及び子供の福祉について理解を深めること。 イ 子供を生き育てることの意義や、保育の重要性について考え、子供の健やかな発達を支えるために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性を考察するとともに、子供との適切な関わり方を工夫すること。	第4章 子どもの生活と子育てのマネジメント 1. 子どもの世界を知る 2. 命の誕生 3. こんには、赤ちゃん 4. 好奇心いっぱい！ 演習に Try：子どもとふれあおう 5. 子どものいる暮らし 6. 子どもの仕事は「遊び」 Skill up：リサイクルおもちゃをつくってみよう 7. 子どもの健康と事故 8. 親になるということ 9. 社会で子育て
(4) 高齢者との関わりと福祉 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解を深め、高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための生活支援に関する技能を身に付けること。 (イ) 高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉について理解を深めること。 イ 高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察し、高齢者の心身の状況に応じた適切な支援の方法や関わり方を工夫すること。	第5章 高齢期の生活のマネジメント 1. 人生100年代の高齢期 2. 年をとると変わること 3. 高齢期の生活を支える 4. 介護を支える 演習に Try：高齢者の介助を体験してみよう 5. これからの高齢社会 Skill up：高齢者の消費者トラブル防止に取り組もう！
(5) 共生社会と福祉 ア 次のような知識を身に付けること。 (ア) 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解すること。 (イ) 家庭と地域との関わりについて理解するとともに、高齢者や障害のある人々など様々な人々が共に支え合って生きることの意義について理解を深めること。 イ 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について考察し、様々な人々との関わり方を工夫すること。	第6章 共生社会をつくる 1. 生活課題の乗り越え方 2. みんなで支え合うしくみ 3. ともに生き、社会をつくる Skill up：自分がいかなる場所を探してみよう！
C 持続可能な消費生活・環境	
(3) 持続可能なライフスタイルと環境 ア 生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解するとともに、持続可能な社会へ参画することの意義について理解を深めること。 イ 持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費及び生活文化について考察し、ライフスタイルを工夫すること。	第7章 持続可能な社会をつくる 1. 地球が危ない 2. ライフスタイル再考 3. めざせ！持続可能な社会 Skill up：できることから始めようSDGs

家庭基礎（2単位）学習指導要領の内容	Creative Living「家庭基礎」で生活をつくろう構成・内容
A 人の一生と家族・家庭及び福祉	
(1) 生涯の生活設計 ア 人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解するとともに、自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めること。 イ 生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考察し、生活設計を工夫すること。	第1章 生活のマネジメント 1. 生涯、発達し続ける 2. 意思決定を重ねてつくる人生 3. どんな生き方をする？ 演習に Try：人生を見通してみよう 最終章 生活をデザインする 演習に Try：なりたい私になろう
(2) 青年期の自立と家族・家庭 ア 生涯発達の視点から青年期の課題を理解するとともに、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めること。 イ 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考察すること。	第2章 青年期の課題と自立 1. 子どもからおとなへ 2. 自立の達成をめざそう 第3章 家族・家庭生活のマネジメント 1. 家族って何だろう 2. わかってくれて当然？ 3. 生活マネジメントの視点 4. 法律から見る家族・家庭 5. ダイバーシティの実現をめざす Skill up：身近な相談窓口を知っておこう
(3) 子供の生活と保育 ア 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解するとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けること。 イ 子供を生き育てることの意義について考え、子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について考察すること。	第4章 子どもの生活と子育てのマネジメント 1. 子どもの世界を知る 2. 命の誕生 3. こんには、赤ちゃん 4. 好奇心いっぱい！ 演習に Try：子どもとふれあおう 5. 子どものいる暮らし 6. 子どもの仕事は「遊び」 7. 子どもの健康と事故 8. 親になるということ 9. 社会で子育て
(4) 高齢期の生活と福祉 ア 高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解するとともに、生活支援に関する基礎的な技能を身に付けること。 イ 高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察すること。	第5章 高齢期の生活のマネジメント 1. 人生100年代の高齢期 2. 年をとると変わること 3. 高齢期の生活を支える 4. 介護を支える 演習に Try：高齢者の介助を体験してみよう 5. これからの高齢社会
(5) 共生社会と福祉 ア 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解すること。 イ 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について考察すること。	第6章 共生社会をつくる 1. 生活課題の乗り越え方 2. みんなで支え合うしくみ 3. ともに生き、社会をつくる
C 持続可能な消費生活・環境	
(3) 持続可能なライフスタイルと環境 ア 生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解するとともに、持続可能な社会へ参画することの意義について理解すること。 イ 持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について考察し、ライフスタイルを工夫すること。	第7章 持続可能な社会をつくる 1. 地球が危ない 2. ライフスタイル再考 3. めざせ！持続可能な社会 Skill up：できることから始めようSDGs

家庭総合（4単位）学習指導要領の内容	Creative Living「家庭総合」で生活をつくろう構成・内容
C 持続可能な消費生活・環境	
(1) 生活における経済の計画 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 家計の構造について理解するとともに生活における経済と社会との関わりについて理解を深めること。 (イ) 生涯を見通した生活における経済の管理や計画、リスク管理の考え方について理解を深め、情報の収集・整理が適切にできること。 イ 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージごとの課題や社会保障制度などと関連付けて考察し、工夫すること。 (2) 消費行動と意思決定 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性について理解を深めるとともに、生活情報の収集・整理が適切にできること。 (イ) 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう、消費者問題や消費者の自立と支援などについて理解するとともに、契約の重要性や消費者保護の仕組みについて理解を深めること。 イ 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動できるよう考察し、責任ある消費について工夫すること。	第8章 経済生活のマネジメント 1. 生活を営むためのお金 2. 経済のしくみを知ろう 3. お金と上手につきあう術 演習に Try：ライフプランを立てよう 4. 18歳で変わる消費生活 5. 進むキャッシュレス社会 6. 「お金を借りる」ということ Skill up：お金を「借りる」意義と責任を考えよう 7. 消費者トラブルの今 8. 消費者の自立を支援する 9. 情報社会を生きる 10. 私たちが社会を動かす
B 衣食住の生活の科学と文化	
(1) 食生活の科学と文化 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 食生活を取り巻く課題、食の安全と衛生、日本と世界の食文化など、食と人との関わりについて理解すること。 (イ) ライフステージの特徴や課題に着目し、栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解するとともに、自己と家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けること。 (ウ) おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について科学的に理解し、目的に応じた調理に必要な技能を身に付けること。 イ 主体的に食生活を営むことができるよう健康及び環境に配慮した自己と家族の食事、日本の食文化の継承・創造について考察し、工夫すること。	第9章 食生活のマネジメント 1. 体と心を満たす食事 2. イエローカードかも？ 3. 日本の食文化 WASHOKU (イ) ライフステージの特徴や課題に着目し、栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解すること 5. 炭水化物を摂る 6. 脂質を摂る 7. たんぱく質を摂る 8. 無機質を摂る 9. ビタミンを摂る 10. 豊かな食卓に 11. 食品のプロフィールを知る 12. 食品を安全に取り扱う 13. 持続可能な食生活 14. みんなでおいしい食事を演習に Try：献立づくりに挑戦 15. 調理のワザを身に付ける調理実習：実習例1～5 □絵⑩～⑭：1日に必要な種類と量の例 □絵⑮～⑰：全国の郷土料理
(2) 衣生活の科学と文化 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 衣生活を取り巻く課題、日本と世界の食文化など、被服と人との関わりについて理解を深めること。 (イ) ライフステージの特徴や課題に着目し、身体特性と被服の機能及び着装について理解するとともに、健康と安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の計画・管理に必要な情報の収集・整理ができること。 (ウ) 被服材料、被服構成、被服製作、被服衛生及び被服管理について科学的に理解し、衣生活の自立に必要な技能を身に付けること。 イ 主体的に衣生活を営むことができるよう目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装や日本の衣文化の継承・創造について考察し、工夫すること。	第10章 衣生活のマネジメント 1. 人と被服のかかわり 2. 和服を着たこと、ある？ 生活文化を継ぐ・つくる 衣生活 3. 快適な被服の条件 4. 夏は麻、冬は毛の理由 5. 健康と安全を守る被服 6. 長持ちさせる手入れ 7. 被服の3R、実践してる？ Skill up：衣類を選ぶ基準について考えよう 8. オリジナルの被服をつくる 9. 衣生活のPDCA 被服実習：実習1～3
(3) 住生活の科学と文化 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 住生活を取り巻く課題、日本と世界の住文化など、住まいと人との関わりについて理解を深めること。 (イ) ライフステージの特徴や課題に着目し、住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について科学的に理解し、住生活の計画・管理に必要な技能を身に付けること。 (ウ) 家族の生活やライフスタイルに応じた持続可能な住居の計画について理解し、快適で安全な住空間を計画するために必要な情報を収集・整理できること。 イ 主体的に住生活を営むことができるようライフステージと住環境に応じた住居の計画、防災などの安全や環境に配慮した住生活とまちづくり、日本の住文化の継承・創造について考察し、工夫すること。	第11章 住生活のマネジメント 1. 住まいを知ろう 2. 日本の住文化を知ろう 生活文化を継ぐ・つくる 住生活 3. 住む人の生活と住まい 4. 心地よく暮らすために 5. 安全に安心して暮らす 6. 住まいを長く使う 7. 住環境を見つめてみよう Skill up：家を借りる計画を立ててみよう □絵⑮～⑰：災害への備え/災害時の心がまえ
D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	
ア ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解すること。 イ 自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践すること。	ホームプロジェクトとスクールプロジェクト

家庭基礎（2単位）学習指導要領の内容	Creative Living「家庭基礎」で生活をつくろう構成・内容
C 持続可能な消費生活・環境	
(1) 生活における経済の計画 ア 家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解すること。 イ 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度などと関連付けて考察すること。 (2) 消費行動と意思決定 ア 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報を適切に収集・整理できること。 イ 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について考察し、工夫すること。	第8章 経済生活のマネジメント 1. 生活を営むためのお金 2. 経済のしくみを知ろう 3. お金と上手につきあう術 演習に Try：ライフプランを立てよう 4. 18歳で変わる消費生活 5. 進むキャッシュレス社会 6. 「お金を借りる」ということ 7. 消費者トラブルの今 8. 消費者の自立を支援する 9. 情報社会を生きる 10. 私たちが社会を動かす
B 衣食住の生活の自立と設計	
(1) 食生活と健康 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解し、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けること。 (イ) おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解し、目的に応じた調理に必要な技能を身に付けること。 イ 食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について考察し、自己や家族の食事を工夫すること。	第9章 食生活のマネジメント 1. 体と心を満たす食事 2. イエローカードかも？ 生活文化を継ぐ・つくる 食生活 3. 栄養バランスのよい食事 4. 炭水化物を摂る 5. 脂質を摂る 6. たんぱく質を摂る 7. 無機質を摂る 8. ビタミンを摂る 9. 豊かな食卓に 10. 食品のプロフィールを知る 11. 食品を安全に取り扱う 12. 持続可能な食生活 13. みんなでおいしい食事を演習に Try：献立づくりに挑戦 14. 調理のワザを身に付ける調理実習：実習例1～3 □絵⑩～⑭：1日に必要な種類と量の例 □絵⑮～⑰：全国の郷土料理
(2) 衣生活と健康 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解し、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができること。 (イ) 被服材料、被服構成及び被服衛生について理解し、被服の計画・管理に必要な技能を身に付けること。 イ 被服の機能性や快適性について考察し、安全で健康や環境に配慮した被服の管理や目的に応じた着装を工夫すること。	第10章 衣生活のマネジメント 1. 人と被服のかかわり 生活文化を継ぐ・つくる 衣生活 2. 快適な被服の条件 3. 夏は麻、冬は毛の理由 4. 健康と安全を守る被服 5. 長持ちさせる手入れ 6. 被服の3R、実践してる？ Skill up：衣類を選ぶ基準について考えよう 7. 衣生活のPDCA
(3) 住生活と住環境 ア ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解し、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付けること。 イ 住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりについて考察し、防災などの安全や環境に配慮した住生活や住環境を工夫すること。	第11章 住生活のマネジメント 1. 住まいを知ろう 2. 日本の住文化を知ろう 3. 住む人の生活と住まい 4. 心地よく暮らすために 5. 安全に安心して暮らす 6. 住まいを長く使う 7. 住環境を見つめてみよう Skill up：家を借りる計画を立ててみよう
D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	
ア ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解すること。 イ 自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践すること。	ホームプロジェクトとスクールプロジェクト